

回									
覧									

丘珠空港ニュース

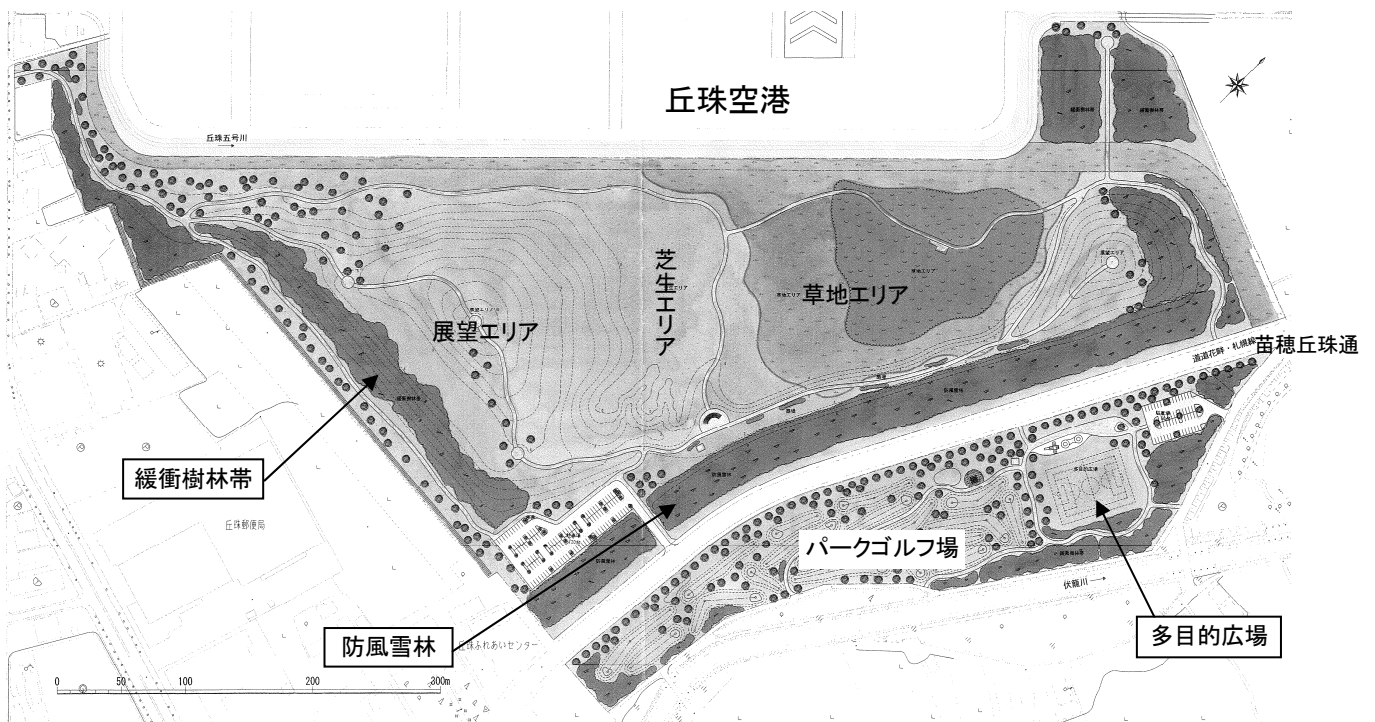
第4号（平成17年4月11日）
 発行：札幌市市民まちづくり局
 企画部企画課
 電話：211-2192

さる3月18日に「第12回丘珠空港周辺のまちづくり連絡協議会」を開催し、丘珠空港緑地の南東地区の基本設計案及び北西北東地区の基本計画素案のたたき台について説明し、各委員の理解を得ましたので、その概要をお知らせします。

丘珠空港緑地南東地区基本設計案の概要

丘珠空港緑地の南東地区は、平成11年度に基本計画を策定しました。用地取得を13年度から開始し、ほぼ終わっています。

16年度は基本設計案（下図）を策定しました。その内容は、ほぼ基本計画時と同じですが、土質の調査等の詳細検討により、展望エリアの高さや草地の広さ等を変更しています。



この基本的な考え方は、①緩衝機能の確保（空港からの騒音・排ガス等の拡散を防止する機能を確保）、②防風雪機能の確保（苗穂丘珠通の冬季の交通機能障害の防止する機能を確保）、③オープンスペースの活用（高さ制限の厳しい区域での憩い、休息、遊び、スポーツ空間の整備）です。このため、①築山や樹林、展望広場、②高さ2mの築堤、32m幅の防風雪林、7.5m幅の堆雪帯、③草地を中心とした広場や18ホールのパークゴルフ場、遊戯広場や多目的広場を整備する計画です。

17年度には苗穂丘珠通の東側区域の実施設計を行い、パークゴルフ場のコースレイアウト

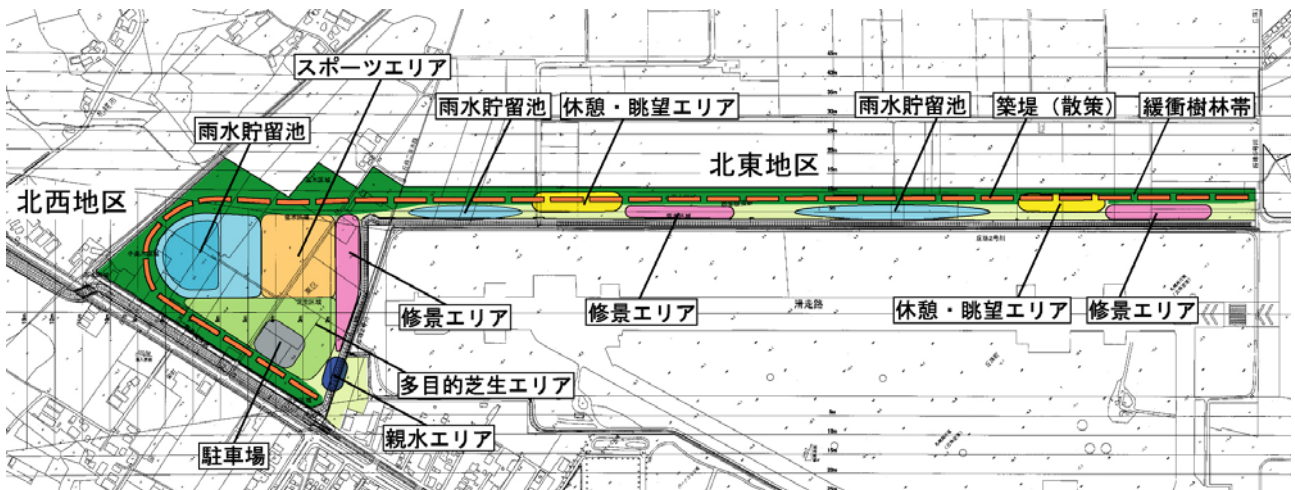
トや遊戯広場の遊具の形などを決め、これに基づき一部造成も実施します。この区域は17～18年度で造成を終え、19年度から利用ができるように考えています。その後、苗穂丘珠通の西側区域の整備に入り、21年度の整備完了を目指しています。

丘珠空港緑地北西北東地区基本計画素案の概要

北西北東地区は18年度の事業着手を目指しており、16年度は基本計画の素案を策定するために、そのたたき台を作成しました。これについては、「まちづくり連絡協議会」の理解を得たため、基本計画素案（下図）としましたので、その概要をお知らせします。

基本的な考え方は、南東地区の考え方を踏襲し、緩衝機能に加え、誰もが気軽に利用できる緑地整備を目指しています。

素案では、南東地区と同様、緩衝樹林帯と築堤を緑地の縁辺部に配置しています。また、雨水貯留池（大雨が降ったときに一時的に雨水を貯めて河川への負荷を小さくするもの）を配置する計画ですが、北西地区の貯留池の浅い部分（図中では薄い色の部分、水深30cm）は、20年くらいに一度の大雨で水が溜まることを想定していることから、その部分は平地として利用が可能です。



駐車場は、緑地の施設構成に応じた規模を確保する予定ですが、駐車場に隣接する多目的芝生エリアを「つどむ」のイベントの際などの臨時駐車スペースとしても活用し、周辺地域の迷惑駐車対策とする計画です。

この区域には航空法による高さ制限がありますが、その範囲内で気軽に利用できる施設としてのスポーツエリア、また、散策の途中に休憩及び飛行機等を眺める場所としての休憩・眺望エリアや北東地区の築堤の法面などを利用した修景エリアも計画しています。

17年度はこの素案をベースに基本計画案を策定する予定です。

丘珠空港運航情報

今年の7月から北海道エアシステムが丘珠一紋別線を開設します。この路線は、今年の2月まで別会社により運航されていましたが、現在運休しているものです。北海道エアシステムは、夏季は函館路線を2往復、釧路路線を3往復していますが、釧路路線の1往復を紋別路線へ振り替えるとしておりますので、増便ではありません。



さっぽろ市
05-C03-05-34
17-5-1